

プレジャーボートの安全運航のために

プレジャーボートの事故等では、「船舶同士の衝突事故」と「乗揚事故」に次いで、「**運航不能インシデント**」が多く発生しています！

運航不能インシデントの原因である「機関故障」や「燃料不足」などは、メンテナンスや発航前の点検で十分に防止が可能です。

- 事故等事例の概要は「運輸安全委員会ダイジェスト 25号」をご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/jtsb/bunseki-kankoubutu/jtsbdigests/jtsbdigests_No25.html

冷却水システムは定期的に点検し、劣化しているものはもちろん、消耗品は運転時間や経過期間に応じて交換しましょう。

冷却水システムが損傷すると、主機が過熱して運転できなくなる可能性があります。

- 冷却海水ポンプのインペラが欠損して、またはVベルトが切損して運航不能となった（インペラが欠損 総トン数 3.48トン、Vベルトが切損 総トン数 5トン未満）
- 冷却海水吸入管の亀裂から機関室に浸水して航行不能となった（総トン数 5.9トン）

機関や航行装置は、定期的に整備業者に整備を依頼しましょう。潤滑油の量やフィルターにゴミ等が詰まっていないか確認しましょう。

潤滑油が不足したり、フィルターにゴミ等が詰まっていたりすると機関等が損傷して運転できなくなる可能性があります。

- 船内外機のアウトドライブ装置の歯車が損傷して運航不能となった（総トン数 1.5トン）
- クラッチ作動油が不足し、クラッチが嵌合できずに運航不能となった（総トン数 5トン未満）
- 潤滑油が漏出し、クランク軸が焼き付いて運航不能となった（総トン数 5.8トン）



定期的に点検！
特にゴム製のものは注意！



燃料供給システムの点検を行い、必要があれば水抜き、エア抜き及びフィルターの掃除を行い、劣化している燃料フィルターやゴム製品は交換しましょう。

燃料タンクに水が混入したり、燃料供給システムに空気が混入したりすると主機（船外機）が運転できなくなる可能性があります。

- 燃料タンク等にたまった水が燃料に混入して船外機が停止し、運航不能となった
- 燃料供給システムに空気が混入して燃料が供給されず、運航不能となった

(いずれも総トン数5トン未満)

バッテリーの電圧、液量を点検しましょう。
主機を停止したまま電気機器を使用しないようにしましょう。

主機を停止したまま電気機器を使用するとバッテリーの電圧が低下し、主機が始動できなくなることがあります。

- 機関を止めたまま魚群探知機を使用し、機関が始動できなくなった
- 花火見物中、主機を停止したままデッキライトを点灯していて主機が始動できなくなった

(いずれも総トン数5トン未満)

発航前に燃料の残量を確認し、万が一に備え、予備の燃料を携行しましょう。
自船の燃料消費量を把握し、航行中も燃料の残量を確認しましょう。

燃料が不足して運航不能となる事案が多く見受けられます。

- 燃料の残量を確認せず出港し、燃料が不足して運航不能となった
- ふだん2人で釣りに行くところを3人が乗船して出港したことなどによって燃料が不足し、運航不能となった

(いずれも総トン数5トン未満)

発航前に船体に亀裂や破口がないか、ドレンプラグの閉め忘れや緩みがないか確認しましょう。

浸水事故、転覆事故になることがあります。

- ドレンプラグが抜け落ちて浸水し、その後航行中に転覆した
- 船体点検をせず出港し、船体の亀裂から浸水して運航不能となった

(いずれも総トン数5トン未満)



発航前に点検！
航行中も燃料の残量を確認！

